様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月　 ４ 日現在

機関番号：２７４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０１０８９

研究課題名（和文）地域密着型教育における学生アシスタント活用に関わる定量的研究

研究課題名（英文）Quantitative study on student assistant utilization in community-based education

研究代表者
津曲　隆（TSUMAGARI, TAKASHI）

熊本県立大学・総合管理学部・教授

研究者番号：９０１６３８８１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：近年の大学では学生に対し地域密着型教育が行われている。この教育には学生アシスタントの活用が欠かせない。本研究は、地域密着型教育における学生アシスタントの有効性と効果的活用に関する調査を行った。研究の結果、学生アシスタントは、この教育活動のアクターの中で、受講学生の能力向上に最も影響を与えていることがわかった。また学生アシスタントが高いパフォーマンスを上げるには、事前学習によって彼らに主体性を持たせること、また業務中に彼らにリフレクションの場を提供することが重要であることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の学術的な特色・独創的な点は次の２つである。第１は、定性的に検証されてきた学生アシスタントの活用効果を、客観的なデータ測定と統計解析によって解明したことである。第２は、学習環境としての統制が難しい地域密着型教育の教育補助者として学生アシスタントを活用し、その教育効果を定量的に測定したことである。これらの知見は、学生アシスタントを活用した地域密着型教育の設計に利用できることに加え、その他の経験学習型教育への応用も可能となる。

研究成果の概要（英文）：In recent years, universities have been offering community-based education to their students. Student assistants are essential to this education. This study investigated the effectiveness and effective use of student assistants in community-based education. The study found that student assistants were the most influential actors of this educational activity in improving the competence of the students taking the course. It was also found that in order for student assistants to perform well, it was important to give them initiative through prior learning and to provide them with opportunities for reflection during their work.

研究分野：人文情報学

キーワード：学生アシスタント活用　地域人材育成　地域密着型教育　アクティブラーニング

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生事業」に象徴される動きの中で、大学が地域をフィールドに教育・研究活動を展開することが多くみられるようになった。全国各地の国公私立大学がこの事業に参画し、「地（知）の拠点大学」として選定された大学は、独自プログラムによって学生教育と地方創生課題に取り組んでいた。もちろん、この動きは、文科省による事業開始前からもあった。地域を重視していた大学は、地域と連携する形で教育活動を先行して進めており、そうした動きが国内にあり、それが「地（知）の拠点大学による地方創生事業」へとつながったとも言える。

地域と密着した教育を多くの大学が注目した理由は、大学の地域貢献という側面もあったであろうが、それ以上に教育効果の面が重視されたからであろう。地域密着型教育を、サービスラーニングの枠組みの中で捉えることで、この教育が学生の学習意欲を高める効果を持つと判断されたからだと考えられる。

しかしながら、地域密着型教育は高い教育効果が期待される反面、閉鎖的な学内教室での授業とは異なり、学習環境の統制が難しく、想定外の事態が起こりやすいという課題がある。高校時代に教員主導の授業を受身的に受講してきた学生らにとって、想定外の事態に対処しながら主体的に経験学習を遂行することは容易ではないであろう。このため、限られた教員のみで授業を運営する現在の教育形態では、教育効果を高める上で限界が生じる。そうした背景があり、学生アシスタントの活用に目を向けるようになった。学生アシスタントによる授業支援活動は、「支援を受ける学生（受講生）」と「与える学生（学生アシスタント）」の相互作用を通して、互いの能力や学習意欲を高めあう効果的な取組みである。地域密着型教育プログラムにおいて教育効果の向上が期待された。しかし、学内授業の支援の場についてはどのような学生アシスタントが教育効果を上げるのかについての検討や育成についての議論はあるものの、地域密着型教育のような学外でのフィールドワークを含む授業支援の場における学生アシスタントに関しての知見はほとんど蓄積されていないのが現状であった。このため、地域密着型教育における学生の学習を支援する手法として「学生アシスタント」を活用し、その教育効果を定量的に検討することが求められていた。

２．研究の目的

本研究では、地域密着型教育に受講生への教育補助を目的とした学生アシスタントを導入し、学生アシスタント活用による教育効果を検討することを目的とした。本研究で明らかにするのは、地域密着型教育における学生アシスタントが受講生にもたらす教育効果（①受講生は学生アシスタントから何を学び、②どんな能力を向上させるか）および、学生アシスタントの活用効果を促進する条件（③受講生の学習成果を向上させる学生アシスタントの特徴、④学生アシスタントの活用効果を促進する授業環境特性）である。

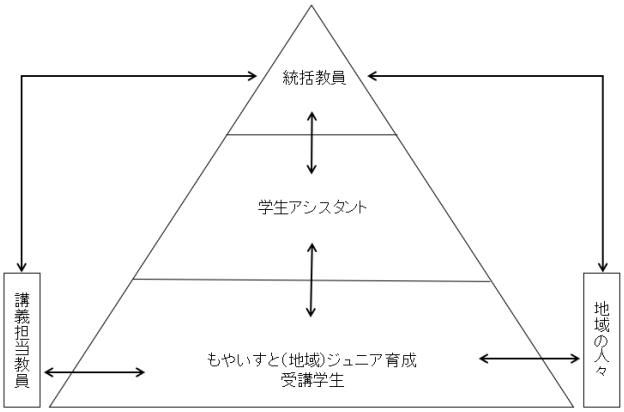
３．研究の方法

本研究は、地域密着型教育における学生アシスタント活用の教育効果とその発現過程の解明を目的とする。具体的には、学生アシスタントが受講生に与える教育効果と、教育効果を向上させる学生アシスタントの特徴や授業環境の特性を定量的に検証する。そのために、（１）学生アシスタントが受講生に与える影響の定性的検証、そしてその結果をふまえ、（２）受講生の学習成果を向上させる学生アシスタントの特徴を受講生の学習過程と併せて定量的に検証する。さらに、それらの研究成果を踏まえ（３）学生アシスタント活用による教育効果の促進メカニズム

について体系化を行う。

４．研究成果

本研究で調査対象としたのは、熊本県立大学が推進している初年次教育としての地域密着型教育「もやいすと育成プログラム」である。これは、１年次生約 500 名に対し、地域コースと防災コースの２コースに分けて地域の問題を学ぶ必修科目となっている。本研究で特に対象にしたのは前者の地域コース「もやいすと（地域）ジュニア育成」プログラムであり、これは地域でのフィールドワークを重視しており、受講する全学生が地域での活動を行うものである。このプログラムに関わるアクターは次図の通りで、本研究で対象とする学生アシスタントはプログラム全体を統括する教員と受講学生の媒介する位置で支援業務に取り組んでいる。



「もやいすと（地域）ジュニア育成」プログラムを受講する学生は約 260 名である。受講学生がこのプログラムによってどのような能力を獲得しているかについて質問紙にて調査を行った。因子分析の結果、「フォロワーシップ」「自律性」「リーダーシップ」「批判的能力」「感情制御能力」の５つの因子が抽出された。これらの能力獲得がどういったアクターの支援によるものかを同じく質問紙で調査した結果、「個人活動支援」「市民性支援」「チーム活動支援」「情報支援」の４因子が抽出された。

４つの異なる支援についてどのアクターからの影響が大きいのかスコア比較したのが次表である。これは、受講学生が５段階評価した結果の平均値である。市民性支援以外、学生アシスタントからの支援は全て 4.0 を上回っており、学生アシスタントの影響が大きいことがわかる。

受講学生(253 名)の他者支援の度合い

	講義の講師	チームメンバー	学生アシスタント	地域の人
個人活動支援	2.84	4.05	4.19	3.32
市民性支援	2.99	3.15	3.41	3.56
チーム活動支援	3.25	4.28	4.08	3.70
情報支援	3.73	4.29	4.42	4.25

※4.0 以上にアンダーライン

さらに、受講学生の能力に及ぼす学生アシスタントの効果を重回帰分析した結果が次表である。これから、学生アシスタントの支援によって受講学生の能力が統計的に有意に向上している

ことが認められ、**地域密着型教育において学生アシスタント活用は効果的であることがわかった。**

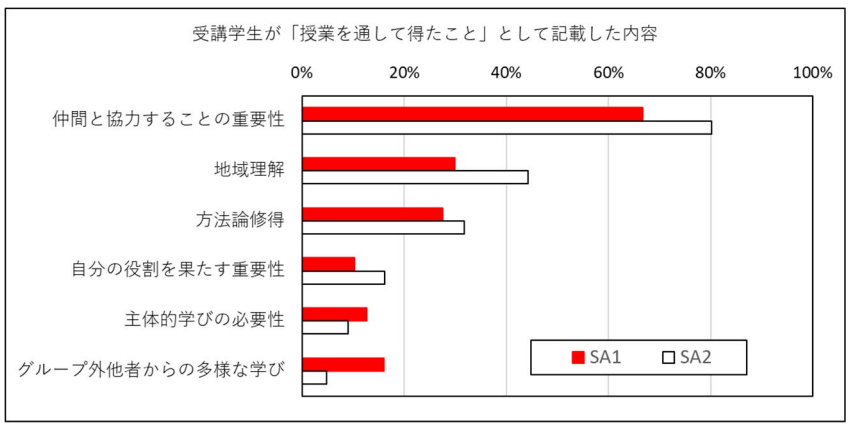
受講学生の能力に及ぼす学生アシスタントによる支援の効果

支援とその度合い	フォロワーシップ	リーダーシップ	自律性	批判的思考力	感情制御能力
個人活動支援(4.19)	.291*	.044	.177	.206	.112
市民性支援(3.41)	-.189*	-.050	-.112	-.181*	-.078
チーム活動支援(4.08)	-.107	.009	-.024	.010	.046
情報支援(3.72)	-.016	.053	.012	-.052	-.043

表中の数値は標準化偏回帰係数、*p<0.05

さらにどういった学生アシスタントが受講学生により強く影響しているのかについても調査を行った。

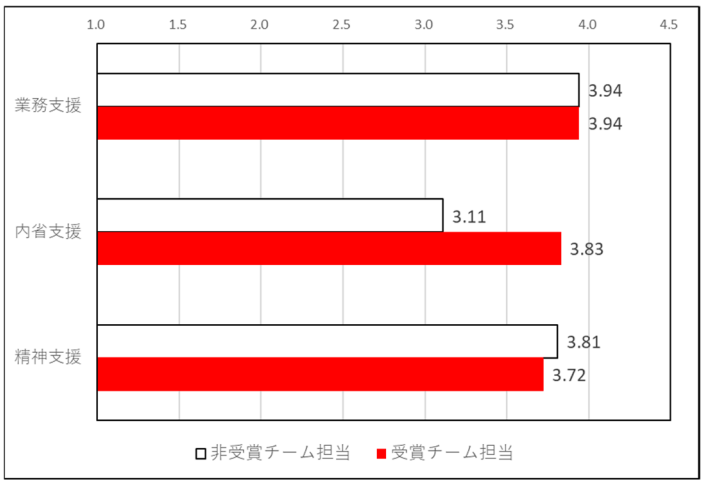
学生アシスタントとしての理想像を事前学習（仮説検証型授業を実践した）の中で考察した学生アシスタントグループ（SA1）とそうでなく学生アシスタントの通常業務のレクチャを受けた学生アシスタントグループ（SA2）の２群を設定し、両者の支援による違いを調べた。参与観察の結果、アシスタント業務中、両者の行動パターンに特徴的な違いが表れることがわかった。さらに、受講学生の最終レポートの中で「授業を通して得たこと」という自由記述の内容を分析し、代表的な記述をカテゴライズ化し、全受講学生についてそれらカテゴリーの出現頻度をまとめたのが次のグラフである。SA１の学生群は、受講学生に対して「主体的な学びの必要性」「グループ外他者からの多様な学び」といった点が印象に残っている傾向があることがわかる。



受講学生の授業後コメントからみた２タイプ学生アシスタントの差異

もやいすと（地域）ジュニア育成プログラムでは、最終成果発表会の場で、ルーブリック評価に基づき教員が優秀チームを選出している。52 チームを 3 つの地域に分け、受講学生チームは、それぞれ指定された地域の課題解決策をフィールドワークでの視点も加えて発表する。表彰は地域ごとに行い、最優秀賞と優秀賞が教員によって選出される。それぞれの地域で表彰された受講学生チームを支援していた学生アシスタント 6 名と非表彰チームを支援した学生アシスタント 12 名の特徴を質問紙によって調査した。その結果、表彰チームを担当していた学生アシスタントは、受講学生に対しては、「学習の意義の提示」や「内省支援」を提供していることがわか

った。また、表彰チームを担当した学生アシスタントは、他者からどのような支援を受けて業務を遂行していたのか、他の学生アシスタントと比較調査を行った。その結果、違いがみられたのは、他のアシスタントからの支援に関してであった。特に内省支援について統計的に有意な差がみられた（下グラフ）。表彰チームを担当した学生アシスタントは、業務中、他のアシスタントから促される内省支援を多く受けていることがわかった。



学生アシスタントが他アシスタントから受けた支援内容と度合

学生アシスタント活用に関する本研究のまとめ

（1）学習環境の設計について

受講学生が学習のリソースにアクセスしやくする学習環境を教員が設計することが重要で、特に、受講学生が強く影響を受けるのは学生アシスタントであり、学生アシスタントと受講学生との接点を重視した授業設計が必要であることを示した。また、受講学生の主体性を促すために、学生アシスタント自身が主体的であることが必要であった。このためには、学生アシスタントが授業内容の企画と授業運営にも携わるような工夫等を考えていくべきである。

（2）事前学習について

受講学生に主体的な学習を促すために、学生アシスタントには学生アシスタントとしての自己イメージ形成を促し、学生アシスタント自身がアクティブラーニング（主体的学習）を行う工夫が必要である。自己イメージ形成は学生アシスタントの事前学習の段階で行っておく必要あり、本研究では、ひとつの方法として仮説検証型授業を用い、それが効果的であることを確認した。

（3）授業期間中の支援について

受講学生が高いパフォーマンスを上げるよう支援を行っていた学生アシスタントは、そうでない学生アシスタントに比べ、教員ではなく他の学生アシスタントから内省支援を受けて行動していることがわかった。そして、前者の学生アシスタントは受講学生に学習支援を行うと共に内省支援を促していることも明らかになった。これらは、学生アシスタントを効果的に活用するには、授業期間中に学生アシスタント間での内省を促す場の設定が重要であることを示唆している。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 Yoko Nakazato, Takashi Tsumagari	４．巻 7
２．論文標題 Examining the Character Traits of Students Participating in an Educational Program for Developing Proactivity	５．発行年 2018年
３．雑誌名 7th International Congress on Advanced Applied Informatics	６．最初と最後の頁 434-437
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐藤忠文、中里陽子、山口貴義、津曲隆	４．巻 25
２．論文標題 大人数学生に向けた地域密着型教育プログラムの一設計と評価	５．発行年 2018年
３．雑誌名 アドミニストレーション	６．最初と最後の頁 78-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 津曲隆、佐藤忠文、山口貴義、中里陽子	４．巻 67
２．論文標題 地域密着型教育における大人数アクティブラーニング授業の設計事例報告	５．発行年 2019年
３．雑誌名 第67回九州地区大学教育研究協議会発表論文集	６．最初と最後の頁 232-239
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Yoko Nakazato, Takashi Tsumagari	４．巻 8
２．論文標題 The characteristics of student assistants improving student’s learning outcomes in a community-based learning program in higher education	５．発行年 2019年
３．雑誌名 8th International Congress on Advanced Applied Informatics	６．最初と最後の頁 324-327
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中里陽子、佐藤忠文、津曲隆	４．巻 68
２．論文標題 地域密着型教育において効果的な学習支援を行う学生アシスタントの特徴	５．発行年 2020年
３．雑誌名 第68回九州地区大学教育研究協議会発表論文集	６．最初と最後の頁 90-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　0件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 Yoko Nakazato, Takashi Tsumagari
２．発表標題 Examining the Character Traits of Students Participating in an Educational Program for Developing Proactivity
３．学会等名 7th International Congress on Advanced Applied Informatics（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 津曲隆、佐藤忠文、山口貴義、中里陽子
２．発表標題 地域密着型教育における大人数アクティブラーニング授業の設計事例報告
３．学会等名 九州地区大学教育研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yoko Nakazato, Takashi Tsumagari
２．発表標題 The characteristics of student assistants improving student’s learning outcomes in a community-based learning program in higher education
３．学会等名 8th International Congress on Advanced Applied Informatics（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中里陽子、佐藤忠文、津曲隆
２．発表標題 地域密着型教育において効果的な学習支援を行う学生アシスタントの特徴
３．学会等名 九州地区大学教育研究会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	中里　陽子 (NAKAZATO YOKO) (60644820)	鹿児島大学・総合科学域総合教育学系・講師 (17701)	